**レッスン：16“M”**

**テーマ：次元**

**MAC16. W/A/E/PK14**

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、光、火の子供達。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

 　次元。次元とは何でしょうか？それはリアリティーなのか、あるいは幻想なのでしょうか？

以前のレッスンで私達はマインドについて述べ、全てはマインドであり、マインドを通じて(through Mind)存在するのであり、マインドから(from Mind)ではない、と述べました。マインドを通じて、なのです。“マインドを通じて”(through Mind)とはどういう意味なのでしょうか？マインドを通じて何が生じているのでしょうか？生じているのは、Lifeそれ自体の現れである、と言うことができます。ですから、マインドを通じたLifeの現れがあるのです。実際これは、現われ、現れるためには手段としてマインドが必要であり、それを通じて現れが表現されるのです。

 様々な異なった波動のマインドがある、としばしば述べてきました。それらの異なった波動を通じて、何が得られるのでしょうか？様々な次元が得られるのでしょうか？もしそうなら、そられはどのような次元なのでしょうか？他方、そのニーズ、必要性に従って表現される機会を現れに与えるために、様々な波動のマインドがある、と言った方がよいでしょうか？

**スーパーサブスタンス、**

**サブスタンス、**

**超物質、**

**物質として、**

**マインドの異なった波動があります。**

マインドのこれら様々な波動の結果として、何が得られるのでしょうか？様々な創造の世界が得られます。

存在の諸世界があり、それらはスーパーサブスタンスの世界です。

またノエティカル界、サイキカル界、物質界という実存の世界があります。

ノエティカル界はサブスタンスの諸世界であり、

スーパーサブスタンスの世界である高次ノエティカルは存在の諸世界です。

超物質の諸世界としてサイキカル界があり、

物質の諸世界として粗雑な物質界があります。

　　過去において、また現在ですら多くの神秘家達が様々な次元があると主張しています。ヘブンと同じ七つの次元がある、と言う人がいます。そうなのでしょうか？いいえ、違いますが、その理由を述べる必要があります。

　　結局、

**次元とは何でしょうか？それはリアリティーなのでしょうか？**

**答えはノーです；**

**次元はリアリティーではなく、それは創造されたものです。誰に創造されたのか？人間によってです；そうです、人間によって創造されたものであり、**

**人間の英知においてではなく、無知において創造されたものです。**

**ですから、人々が話しているそれら全ての次元は意味だけであり、リアリティーではありません。**

**それは気づきの特定のフィルターを通じて理解可能な何かなのです。**

page2

　　そうなのです、マインドの様々な波動がありますが、それは気づきのレベルに従って、表現される機会が現れに与えられるためです。気づきのレベルに従ってそのパーソナリティーは、異なった次元にある人間によって理解される異なった意味から制限されています。

　　意味である次元は、マインドの結果ではありません。いわゆる三次元の世界で表現されている人間がいます。しかし、実際には、三次元の意味の制限、制約は無知の結果として人間が創造したものであり、それに類似するマインドの波動が人間にそれらの機会を提供しているのです。

　　それらの波動を創造するのは気づきのレベルです。いわゆる次元を創造するのは気づきのレベルです。同様に、四次元の諸世界の意味の創造があり、五次元の諸世界の意味の創造があります。

実際、私達が次元について述べる時、それらは人間の現れの能力における制限を述べているのです。次元＝現れの様々な限定レベル、なのです。

　　さて、***次元は気づきの結果であるなら、それらの次元はどこにあるのでしょうか？存在の諸世界において次元を見出すことができるでしょうか？***

***答えはノーです***；存在の諸世界においては、全ては全ての中にあり、私達は気づきを通じて自分自身を表現していません。魂のセルフ・エピグノシスは気づきを通じて表現されてはおらず、その真の本質を完全に表現しています。

**それは全てが全ての中にある状態を意味しています。聖なるモナドは全て同じ特質を有しています。**

ですから、そこでは次元の意味の制限がありません。なぜなら、それらの世界は気づきの結果として創造された亜ステートではなく、ステートの世界だからです。

ですから、**実存の諸世界でのみ次元は創造されるのです。これらの世界には次元がいくつあると思いますか？三つですか？**

**そうです、マインドの三つの波動があり、それら三つの異なった波動の中で私達が表現される機会を、私達に与えています。そうです、実存の諸世界において、次元のそれら三つの意味があるかもしれませんが、実際には気づきと同数の次元があるのです。**

　　その理由は、私達各人は自分の気づきのレベルに従って波動を理解しているからです。次元は意味なのです。私達は意味を創造し、私達は自分の気づきに応じてそれらの意味を様々に理解しているのです。それは他の全ての意味、つまり善と悪、黒と白、暑と寒といった二元性における意味の場合と同じです。ですから、気づきと同じ数の次元、波動があるのです。

　　さて、次元を私達が住んでいる世界とどのように結び付けるのでしょうか？以前のレッスンで、気づきと同じ数だけサイコノエティカル界があると述べました。従って、各人が住んでいるそれぞれの世界は各人に特有な次元の世界である、と結論づけることができます。

　　さて質問ですが、**私達は粗雑な物質界に住んでいながら、三次元から自由になることができるでしょうか？どう思いますか？そうです、できるのです。なぜなら、次元はマインドの様々な波動の結果ではなく、気づきの結果、私達の現れの結果だからです。ですから、この粗雑な物質界に現れていながら、同時にマインドの波動の結果であるいかなる制限、制約も受けず、私達が理解しているような三次元の制約の中に閉じ込められない、ということは可能なのです。**

page3

　　四次元、サイキカル界でも同じことが言えます。四次元の制約の中にいる必要がないのです。勿論、五次元、ノエティカル界でも同じです。

　　さて、パーソナリティーが自分の諸体をマスター、支配できるようになった時、そのパーソナリティーは依然として様々な次元の限界を感じるでしょうか？勿論、ノーです。なぜなら、そのパーソナリティーはもはや気づきのフィルターを通じて表現されることがないからです。そのパーソナリティーの現れにとって、意味はいかなる制限ももたらさないからです。

　　もし、そのパーソナリティーが高次ノエティカル界において表現されるとしたらどうなるでしょうか？このパーソナリティーの表現は名前を持つでしょうか？また、そのセルフのどの部分が表現されるのでしょうか？

　　現わされる部分は、私達が永遠のアトムと呼んでいる何かです。しかし、それはそれまでの全ての経験の結果として、完全に形が再形成されています。今や、永遠のパーソナリティーの特質をかなり表現しますが、しかしそれは永遠のパーソナリティーではありません；完全にそれ自身を再形成した永遠のアトムは、永遠のパーソナリティーを純粋に現しています。

　　従って、結論として、スーパーサブスタンスの諸世界である高次ノエティカル界の中でそれ自身を表現するのは永遠のアトムなのです。それらは境界のない無定形な世界であり、そこでは必要性、ニーズはありませんが、しかしまだ存在の諸世界ではありません。

　　それらの世界では次元の意味は存在しません。なぜなら、人間が表現する気づきを通じたものではないからです。ですから、気づきのフィルターのない実存の諸世界があり、それらは高次ノエティカル界です。しかし、それらの世界でそれ自身を表現するのは永遠のパーソナリティーではありません。なぜなら、

永遠のパーソナリティーは魂のセルフ・エピグノシスと共にあり、魂のセルフ・エピグノシスの諸世界は存在の諸世界だからです。

　　人間が存在の諸世界で表現されるためには、その人は実存の諸世界を完全に背後にして去る必要があります。永遠のアトムが魂のセルフ・エピグノシスと同化する必要があり、従って、再び戻るということはありえず、転生のサイクルは終わります。

しかし、現在のパーソナリティーの諸体、いわゆる永遠のアトムを完全に再形成し、現在のパーソナリティーの諸体を完全にマスター、支配するレベルに到達した後も、奉仕するために、神の愛つまり私達各人の愛を広げるために、私達が無知の中にいる間は表現されないような状態の中で、転生を続けることは可能です。

　　***絶対愛は全ての人の中にあります。それは実際、私達自身なのですが、私達はそれを知らずにいるか、あるいはそれを認識していないのです。私達はしばしば、神はこの世界の重荷を背負っている、と言います；私達はどのようにしてこのことを理解しているのでしょうか？なぜなら、神は全ての人の中にあるからです。私達が苦しむ時、実際に全ての痛みを背負うのは神なのです、なぜなら神とは私達自身だからです。***

ロゴスは全ての人の内側にあります。私達が今述べていることを理解するのは多分容易ではないかもしれませんが、事実そのようになっています。ですから、特定の人が現す現われにもかかわらず、私達は全ての人々を尊重し、愛さねばなりません。なぜなら、そうすることによって私達は神を愛するからです。そのような現れ（＊特定の人が現す表現）は無知の結果です、それは幼稚であることの結果であり、それ以外の何物でもありません。ですから、私達は人々の様々な現われにかかわらず、全ての人々を等しく抱きしめ、愛する必要があります。

　　*さて、永遠のアトムは存在の諸世界でそれ自身を表現することができるでしょうか？答えはノーです。なぜなら、前に述べたとおり、存在の諸世界は魂のセルフ・エピグノシスのためだけの世界だからです。多くの探究者や神秘家たちが、自分はそれらの世界に入っていると主張するのを、あなた方は耳にしたり、読んだりしたことがあるかもしれません。こう言うのは申し訳ないことですが、誰もそこに入ることはできないのです。現在のパーソナリティーが到達できる唯一のレベルは高次ノエティカル界であり、それは実存の世界であり、存在の世界ではありません。そうです、それらは無定形の世界であり、全ては全ての中にあるのですが、それらは魂のセルフ・エピグノシスの世界ではないのです。*

多くの神秘家、特に過去の神秘家達が、三番目のヘブンに到達したと主張しています。彼らの中にはそれを多いに楽しんだ人もいれば、自分自身を失うのを恐れた人さえいます。彼らは高次ノエティカル界に入ったのであり、ノエティック界、存在の世界に入ったのではありません。そこには違いがあります。現在のパーソナリティーを転生させる永遠のアトムが、最内奥のセルフ(Innermost Self)ではなく、インナーセルフ(Inner Self)の特質を現在のパーソナリティーとして表現する状態に到達するのです。この状態に到達すると、インナーセルフは気づきというフィルターを通じてそれ自身を表現することはなく、それゆえ、そこではフォームの境界、次元-創造の境界、気づきの制約という境界はないのです。

私達は常に神、絶対、神の聖性の中に抱かれています。

EREVNA/MAC16/14PK